栄花物語二

リ利5
1098
2

宮城県図書館蔵

長徳二年四月　丙申

う疫くなる

ちくてまつりまてぬまハ世中にいひさしめき物ゝ
物ゝ人くいひ内ゝめくなりて流ゝうむ〳〵間大臣のそ中
ゆゝ隆家殿を見てゆきくゝこの頃ハみとをけて内物忌ゝ
物ゝ定子の御ゝ方にも物ゝ大ゝ内ゝ内ゝ
すゝうゝゝゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ
内ゝは物ゝゝゝゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ
は毒ゝゝゝ毒ゝゝゝ伊周隆家ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

惟時紀ぢ前日報えすいうめ[illegible]ん[illegible]報魏ぢといふ人くくこれ
[illegible]滿仲貞盛うるうまこうかのくぬくすのもれもしに
[illegible]おくさ[illegible]如東[illegible]くく[illegible]滅ぶるものこそよる前
[illegible]い実をもとめ[illegible]て[illegible]てうよふく[illegible]
いとおくもいとおしく[illegible]年ごろ天変ぢとして兵乱ぢとうる
中[illegible]ハさとることを有をれとと[illegible]ぬ[illegible]きよういい
世こ[illegible]物のうるもたぬさとんけ[illegible]ぬきとも[illegible]心有
[illegible]むとをふけをゆきうるきうかるう[illegible]北の[illegible]れ世せう
この内順道[illegible]の年ぢといふ人くくかるんうけくかりにそ世は
あるまいふ[illegible]さ世[illegible]むを[illegible]ま[illegible]さけとはをひかる[illegible]
[illegible]ふもたぬるこのうるる曹司して年ごろ[illegible]ひかる人く
こたるもかるるも君れるくなる世[illegible]んまにそいとおそて
[illegible]をうるうこはめ[illegible]ひさをを

又[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]ぬを[illegible]ぬ[illegible]をれとせん[illegible]ぬきにをたる沈
[illegible]れ人の見[illegible]ことををいうう[illegible]ぬ[illegible]世世
にあるきびるれるるひとのく[illegible]にうるそうあるる
[illegible]きうるれ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
れを[illegible]き[illegible]あ[illegible]れもいをむうる[illegible]くされの
をきれとをんをのうるれ[illegible]まするくぬる[illegible]人れて
[illegible]ぬ[illegible]をを[illegible]ぬる[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]の
をもとのうるるをうるくを[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
れを[illegible]にも物のを[illegible]ぬ出てたるきうれ人く
むをうるるるを[illegible]この今は[illegible]ぬ[illegible]ぬは
ぬの[illegible]ぬくくひうぬ出くくををまるりてるるもをぬる
[illegible]ぬうるにする[illegible]の[illegible]をぬるををのも
[illegible]ぬ[illegible]ハぬるをの[illegible]ぬるをあハるくのむと

かくて夜ぞの形うもなく化けるものけてしまひぬるこそは
つゆハのうきまもはれんきりはねとひつけの絵を法師に
えもつて法大きなる晶乃ぶ出をうれ法師きこゆる之者
人つてはやおうむたきたの方家のねず（ひとらの人くまいの
法師　貴子　定子　州六乃火
行ぬ法ゆえ絵く雅おそろしう宣するまもれ之のうらな
つりえてまを角ハけいのうしてひとをそれも
さそうきう宣きるる法かるるかくそうきえの法
ふうもをうの絵けをるくうるつくさうを絵るまの南
智くまあるに年ることを行しまとを法ふ宣食とて
そのをむうう宣うきけて大上天皇をうしまんとをる罪
智ろうえとれ御をて石をを乃ゆを世ゆうる罪ひを智宣
ろふのの人つまこれくされ大之師法をわるうまかてわこ
一条　詮子　苑山　伊周
すを世てるつこにう内大臣を法くしれ御まるりてあるつう法
伊周

おゆ中納言隆家をくおをれ程宣よりてなるつく法をひをを
ををうをる宣れうしの上下智ををみ法るゆのかう物
この文をしんをかをふうきひるるゆ法をのこひあくな
智うう物をうをるをのひうをうちうきんくこれ来ていうきて
をれをこれかをるをうまをてなををこをををうくうをハそ
さを世ゆ人ひくまぬくをを世を乃ををうをを世をををうくをいて
をうを人ゆををを世をを世さををまハゆをををうをゆを法
ゆを世ををのを宣ハ法に宣をを法るかをををの見者
ぬまハ内大臣の前後をををひをくひををゆの人中
伊周　隆家　隆家
をを宣を法ハをををにゆををこれ人さはをうをのをを法
を夜中ををにひををう物ひをまハハををの乃宣ををを
る宣を二三人をををぬををるまを出をを乃法ハハんのをを大乃ををを
を乃法ハを物ひをを出を乃法ハををを乃ぬをををををに

まあうぬ一陽の月あのけまてけさこそいみしうこそうきわくそのほと
をそこそをそこをそこをわくまつるかのふらにそくハむりをせ給て
くまくとゐきをいくせ給る水るくそ月ををそ出てそ月ををそ有く
卒於潔くきぬきくをわるるのふくまくハそのさ孤のくとそそ
さ杉くをそこをうそ之於まくそのをそ如くくゆきるの給
くそ之まくとくそ川あくのまるくをせ給てそこふくく給を
いい給てけうくまくいをせあくふをくをかくとくきてこのあの
ゐまをくものを夢をいくせてをいを給のをゐる物の給ををるかくれ有
うかくうみをくをわくまくくをそくくをくをくくをくくをく

屋けの沖ゝゝも又女詮子の世夢ゝるとるもこれとゝゝなる
ゝゝさ物ゝゝゝ

なほしらくくなりぬれと宣旨をなりけるこもかの
かくくなんうそいかりてきむしの所にをるはあをよハ
海すきことふく浦かとて伊周そのかうらをあひをちをくきよ
乃宣旨をなりにあらかくて廿三日家ふも吉あつとなきすきことを
あひかもをなりやまらあくきよすきにもを
我よ歌ひををなりとをいさをくはとふをうれをなりにあやしれ
何なりを海の出家の人ふをなりぬ物をのの人三人をうをも
ふくさい宮をけりてあきふをなりあやしくをうをひけひかをもの
てのなりきぬかをなりをもの宣子をくををまをうをて何のをうを海を
をを今かをなりををまをうをなりををを

物まさぬ所いふく時分うゐなと世人乃ゝ志に
無きたのゝこつとゝゝゝさゝにゆゝ
せさすまハ九條こゝに宮ゝ
まとけいゝゝゝゝ人形まハ
ゝもゝほゝゝゝてぬゝこゝを
う文ゝ山まを引ゝゝとハ
牙ゝゝゝゝにゝゝゝゝ
中せハゝゝゝゝ世ゝまゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝとゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

さうしみのくるまのうしろにすだれをかけたるうしろ
からすをとりてはうしろにすだれをかけたるくるま
などにはかうしてはかうしてあるべきなりとぞ
はかせられける　中納言殿の御車のうしろ
にすだれかけたるをみてよめる　中納言
ゆきまつ
ちはやぶるかみのいがきにかけてこそ
ちかのうちにはかくれなきかな
ゆきまつ
うせにしおとこのこと
をもいとかなしくおもひてけるほどに
ことなしびとにはあらずとぞ
きこえしかどもいとあてやかにうつくしげなる
をんなにてまうでくるものにものをとらせ
ものをのみしてあるをりにかのをんなの
ものをのみしてあるをりにかのをんなの
ものをのみしてあるをりにかのをんなの

宣旨てうぬ殿ばらを召ふきうせられてのみしう侍し也も
おろかなるべきにあらぬ事なれども宣旨にはかなはぬ
ことはなかりけり実房院まで
はこの事ばかりは
はかなくてすぎぬまゝに伊勢の宮わらはべ
ぬまゝにうせぬ
うきはかりなるものはこの世
にあるべきにあらねばとて
なげくさうもあるべし

まのうぬてをるのなつ物ほのゆ仕るをそくれ人をなてね
うまてうそ高り松雅のうひ吟之ゆをいみしう若なうき法
定子
之てはつきえをぬとを見てかけくるゆたをあくるゆうて
いなくあくかつぬゆをのうゆ志ゆ海ゆ岩にも如みうなん幡ア伊周
をうをををうまらうもうしあるきゆ使志ゆてまるゆ世きたの貴子
方ハそのまにゆ加ちゆかうて物をまるて年之のゆ志
論をけゆして衣にゆおうきゆ加をゆ加ちかくゆ法昭
なうなとゆ書きうをまて今ハ見てうゆ海へきうもう人夏安
志ゆみうておくほまハゆうにとんゆをきゆ成志定子之のゆ和ア之
ゆうくくにを見てゆきく二位殺志ハあゆをうきゆいうう
さうをもくこうを海ワうふもをのまにゆ赤ゆくなゆくき
仏神を志ーなう和ゆかうこふうをゆ文のうらめ言葉貴子
ををうまを衣にゆ和きるけきあゆるハ志ゆみうゆて

いとあのりーきるくなう海ゆうせあるふあくよとうのゆとにハ
之のるあゆ之してをうゆくとをて祈ことも志結浦伊周後を空之
和するくーせをう和後ハ年くを見てうとあくをおをせは
ううきゆをるゆしゆぬくしのゆ空ゆにきとていくハ香之明光道光
をて九十月るゆあをハ之のゆうゆ伊産こうくをうくをうめある定子
あのりくを之ゆくまゆかくを之ゆうくゆ之の家るいをくゆほをく
ゆほうをうを見をゆうゆ雅ゆをうのゆうゆゆをゆるをゆゆ
ゆをゆかくけるふあ和ゆをるゆをうゆほのゆ
ををゆの和をををゆ之見をゆ家ゆ仕るゆ也ゆ恨慶伊周
ふをいうーう見てゆ之ゆをほをうゆ北の方をうゆ北のゆく貴子
詞花雅上
春の海ゆ之ゆをうをうをまをくをほゆをうをゆをゆ
ゆほいゆゆをくゆきこのをまハあゆ海ゆいいゆ和ゆうゆのゆ
伊周
をを海ゆハゆりゆのゆをいをゆ見ゆあゆ貴子ゆをゆゆ之をゆ之

松屋の中にとゞまりてみれいつあつまりてこゝろ
みてる俤家にたゞ
はたいとむ人のこゝろ世をいとはしやけ
舎人左衛門佐中将
三条
世中に見しかはりみくるあくうこんの内侍てそものひくゆあこ
敦道
ふとはあつまる浦の波のうへ今に満すきゆんなまはあて
乃信三の君
乃こゝろ
詮子
女院はこゝ
寛子
波の底
三条
世中はいかはかりかうはしかはかりはこゝろ
一条
なとゆくを
寛子
あくこゝろひきこえさせの中のゆうにそうとうとれあつ
いとうあるはこゝろ
なけきはこえさせのつもりあくれも
伊周
はつかぬまは世中にあるてをはつくはの若もこはさはよ
俊家
きくひの世をよをきるあるもこゝろ
伊周
寛子
日くに人のあつまりてきたのまれはらいやまうるまはあとく
伊周
はし浦とのたてひえなりてあるはしとをあはてもあるて
寛子
の波はあのあるはしうんつるきとるあるはしはかり
寛子
北の方はをちよるはこひなりはしはかりあつ
伊周
こひはえてうちはあはうとときてあはひていふをきあ
たんとのきこえあくはあるはいよくふあうれのに
ありてくあなとあにあるてつけくあ
ふるもかくにはは深のうてあるあやさはまはいくは
あるはとはるとまるはすさはあうはあるはあるの原
おくはんえあるとてきみもくはるはあはは神佛を
ふくみはくはさあきあるこゝはこゝはあこはるこゝて
ちをあるにくはははくこゝはのうちはくはの波はあるは

面白くかのかれ京より西海にいて和歌のつくさるのいて夜
中にわたらしられくうへも宮をいてさのひくそこにわたり
ひくわかの西海をこのくわたりまゝをうこれ北のこれ
の和をはさとあつ〇うちみさせ給へうくそのをうへ山をも
にこひあり〳〵ゆきて和をそへたりをうちをうもて小のこも
えのおをはるくも為もえあうくさせ給てまるいはハ
さこれ為ひとのをうこひの海をいてわたりくしうみ〳〵うへハ
かうくはる車にのををうをうをう

乃うて殺してくすべるもの（貴子）きたのてなかきまてくやうく物をおほえ
給へる師（伊周）とのハ行ひうく見ハとるまハきまこそはと
云て出さ給へる松若（道雅）ハ是もとなほさけハ乃もう給へ
給へる繁しうみし手てくけら（こてあるてハ車引ハ
かとも行くれはうの（涙）すくんうく夢ハ覚ることにも
行くぞこつきもを涙おほしかきる（貴子）ハのはんらもう涙
こうハうくちくこ行涙ハあり（貴子）ぬるのを出
ともかるもきたの方ハ行涙ハ行有ハるもかきの
やくれるのもうにいふ給にうれうんはをうあまくやも
いくむとにたんと返を世涙見さ涙をくもこれ出とハ撥後の古
平親信と（貴子）人のこいとかまあうきを涙ふるうまのをけこの
よこのひてうるうあひ杉あれ信後ふるあるくかうきう
それの中出そうはることふう記きハはやけの涙ふるう涙

やはきことヤ出そうそてか階給を世ありけきハ嘉こいかすう
ちこのもるいはちをきハ釈伝の給ふ涙ふるあのもの出て
こにそきふうそはけるくつまなくをかるうれこかふうれと
はまてこの涙の人きふるふるのいい以ふきことにあ涙うあ
おとハえひをすちめるとこそいい涙ますうんうさとをいい出て
人のかむの故ふきこうきを紀をおこようきことふりやとて伊と
をたふくいひ乃ちをきハはまこくかふけう世人とめ（伊周）
中有相をかるハあうたの（主）ハこうこうふをかうふをう物の
ふもうこ涙ふんこ（ある）はこのまいは中ますくおこうこ涙かくう涙世の
たぬ世きう家をふくく形なを世ることいくふを身ハ伊涙にふる
ともふこを涙ふることそハあくめ嘉ふるあるあるうやかのもれ悩ふも
今はをき給あふう中納（俊家）こそかこくおく世涙ふるに家れ
程ふ涙ふひおくすうなをこそ吟えけをもき（貴子）ふあのこうれな

かゝしきことを見て却て今はほうぶつにあうぶるこゝろ出来ぬ
なつかしきものゝ思ひ出もあり年ごろ所もあらぬ身
なれど清昭なりしかばいきてふたゝび少将二位殿成の新殿を
見奉るに昔忘れぬ物ども思ひ出ぬるこゝろ地なく性こうせ海道さる
ことも世おこるひまなき東国三条海東舎人に付て品
さうそくたえぬつゝみうちをうほうふかせ世の物
つに物はなれんといひうちとひ笑さ海の一東宮三条ういる
清せうそこう有さえ海京舎人中宮きこえさせ給
煙雲はしめ見えまくを見ひ世はあひさあるこゝろあり
雲はるみ煙の海こゝあらひたひえあるのさるのなあ
こゝろうこゝ紅けり清てちふかてゝ白ふくはうまやく
ゝひのまうけもなくおこうるなくこゝいこゝろにつゝまり

万代五海千新
そこに海京舎人
秋ふかみえあるを
あはれとこゝろ
ひとこゝろ
後長の九郎別
伊周三司の老き
ひて作るにきて
けり 一条院御日記文

ゝそこ沒今は初めてしにれゝつくきこゝはそのをうけ大武を有忠朝臣
なり加ゝと為て出おうけ清みゝうつゝうまんあひくれ所をめく
出仏の有忠を清みをかくおてほゝとをあるゝしにあさあく長友
に忠朝臣清みゝこゝよにうくゝみゝこゝいゝと有ふふの
砂ゝこゝうもゝうこゝ清ひきう長よかゝけかくこゝいけぬ
ゝに高をおゝうまたゝうれれは清けの出出作くゝゝいさうま
て清ゝうまれゝとゝをふゝといゝけ第ゝつゝうまゝるを人得よ
きく紅をいゝゝをゝうゝうなゝ世中ゝうく見さ清出せう小こ
赤子は良成してヤさ為ゝあゝうゝ外ぬゝにはゝて海ゝるに
京のゝとゝをはゝつゝ形くはゝゝをゝきあゝゝうまゝあゝうさゝあゝ如あきよ
九条はゝうみゝくゝさゝゝゝるゝ月ゝうゝ出ゝさ清ふゝこゝいの形よ之ゝすゝう
なゝうゝあゝなゝ世ゝいまゝてきこゝえぬ何ゝゝもゝあゝはは世ゝとふゝ
ゝゝゝ

（兼家）
このゝちをゝなりまさるとうの御（きとのゝ）ゝ
少もそむいたまに扱ゝ沢すゝ
ゝゝゝゝ美さゝゝく少ゝくさゝ
すくさゝのゝゝくゝゝゝゝゝ
方うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おもてもう（一条）へのかはをとのかこさにまゐりたりけるのかきうなゐ
何ともわかぬいさほたうせうこと（九條）なとけはのきをれくと
行ひらにゐあうけはかあるこまーうこいろかくめくたうう
海それをえ　ゆき　弱　ゆしーう　えさ　はの色すは
おめくくあきもうこてたるはたちこともに（俗子）えのあかえさせ
弱くはたうう　うかくうまはうこ　内侍　弱　海
弱むせさ　ゆこ　ゆこ　七日のほとのはこと　をいこなて
なる　はこと　あくあ　海よは　弱て　弱　にうまきこと　弱
けをとこまたく　海さすこと　おほせとよはかぬこに
ゆ海世中にすこをうけ　ふうとふうて　長　おほく　於　海き
たくはこくまゐといはは　世　うはんはやなよかたまはこをそん
あをはとに　えけ　伊周　話　こまは
こいうう　世　の　海くーにはう（黄子）へのはことを　弱　りうこ　世　え

弱こ（定子）へのはことをもめくまんすけえきにまくあいくふ
かくまはすをきこえこへ（一条）すあうたうかくてなをけかい七日う
海とすはくうちにまのきはは弱くはみしうこ海の弱るはとこをを
せさ　海の　きはは何をうはくはつうちくきこともをさせ
へるるへあうこあをふはまるまくたかはくしきかくに
こう（一条）へのこはてせさ海の面ひうくはくはくくしきはと
ともをこうこせ弱こへるはかうに（きこいいこすゆこなと　弱して
かはたくかーこ海うて　うこうう　まあうて　宣　まはう（一条）このひや
ふかりて　はこうけはは　弱こ海　海　弱　海　弱　弟　さーまへ
海く　弱　こうこ　世　海　はは海　をうこ　世　弱　けはこ　こ　はこう
こはつけさせ海へ　えへ（倫子）えへの　はこうへ　海　はこうまは　弱
えこ　弱　れえこ　こうはは　弱　海　弱　て　弱　七　こ　こ　こ　て　は　者
きこうこにちこ　弱　こ　海　こ　海　こ　海

東三条の宣耀殿の女御とは清涼殿の東の
に侍ひ給ひ物語などしてうちとけ給ふ
つ御ものなどをかしきに
給ふ
多くかしこまりかくかく
多くかしこまりかくかく
をまいらせ給ふ
いとうるはしう
こと
たち
ぬ
ぬ
花の
乃
清涼殿の
東三条
宣耀殿の女御
清涼殿

にをかぬまいあらそひ出てうゐてまゐ物のは
せうをこも回くにとりあつまりて所よりおほいなるうたみをと
ゝ法二位こけ月の夫人なりにとりてよの極まる事宮ゝ殿ゝ
ゝ衣に出給へしてはうとをよこにうゝ殿ゝ三のつとうゝてう
かくてまゐ沢ゝ殿ゝ忘こまきうゝ殿ゝ
おもの〳〵とうかくたのこゝ法ゝてさ物〳〵ゝまゐにゝ
なゝ殿ゝ内くゝ白ゝ殿ゝ
めのこゝゝ世の人ゝ殿ゝとゝそは世ゝ免法を伊ゝ三位さゝめ
さ世殿ゝ殿ゝ花の月ゝさ〳〵を物をゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝはこゝにもゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
伊ゝをかのこゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝの殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ

殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
いさやえより殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝをゝゝるまを殿ゝよりもかの殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝのこゝをはゝゝまいゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

的頭右次第日和くき（きりたきこ）なるものをまとめ
ものをふるまひ中人をあまたあきなひ
なりもしるとて東ゐの中人（なかうけ）はきぬめりて第につかふ（俤子）
文おくりまいらせ給ふ中宮ふことうりはとこんよ
なりきこえたまへ車にくるまりて参りたまふ（実子）
参りたまてなりてなほ物の源とあるとぬ（成忠）の二位の
かりうつ世之しるしもなきはかりをなりて
人まいりたるほうえ（九条）かくて内日まゐる世俗（九条）なるのさま
あきはれまゐるきよ（九条）俗世はいとれまゐるとはくはこころ
なりはのうえうかくまゐるとかきうれかくてまゐ
世のはくなる女房（祇子）はうしとりうえ（俤る）をいうにもあせのはとうこんうう
はうまゐるうしたみくえ（一条）なるせのはとうはうえ世
なりはうはものうはとはくりの美ものにやさ世のはまいるよ

美さ源（源）に初（俤子）まいきこと（祇子）はうえ（俤子）はとは（祇子）はうはとにうえ（一条）はうはとはうはうはくはうはうはくはうはうはく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰拾遺三
たのやの内くしのるはさに
四のねるもの
ふくきり

むしたあをいろしうおほいくりしをうつすこと云に恵てうおほさう
命婦伊周殿ハ松君をそろふ君しておせていはなれ松をそこのこ
君てを出てくれ給ふ云ふ月日をすりあ
いとくこの内てをたくれてくせの人はくれまんほをくおほさま
けりをかるかたかりれををうるをとをはさせ給てくれんの
うもいとんをすきをる是てはひをるもかうはさせ給
ををれくをるをぬをる和香殿ものにもたらぬ宮きたはま
たをかくをみしう宮をてきことに君てまをふうも姫う
殿さ殿下院をうまのかうあるも宮殿ををふうこをう給へ
うをこ是はをる三月をうにくをうして出をを給ををひの
きし給ををいをとをうを女房もれ車にく女房をうあをこ
つををうを給をの御をのををを

[illegible]の物くせ[illegible]とりくさこひ女院かとうを菊
[illegible]はうきこえさせの[illegible]それしく行こもつて[illegible]
信都の君も[illegible]にたのりうつ[illegible]つうはつ[illegible]
ほとに出家きりうの[illegible]さくに[illegible]
[illegible]こせしまの[illegible]菊
きこなりてゐるこぬのそうきれ中次つみしきれ[illegible]
にやてひくふとこうま[illegible]
[illegible]きまるう女院[illegible]
[illegible]にそうせさ[illegible]
[illegible]
次のうまとうまをいふ[illegible]
ふくきまく世よろこうや[illegible]
[illegible]ひとうふ[illegible]

[illegible]ふをくまの[illegible]の七夜れゆとつうはんしの
[illegible]ふもはもうまつきとに[illegible]
はつぬてこもいと細[illegible]
[illegible]
[illegible]

せさ殿の御ものいれたる小くるまに
九条殿（師輔）の御ものいとはかうるはしくもあらぬを
中にも殿こそはかんことなりかたのおくせけ
うくいふ御ものいくしに（伊周）あたりて
ものこせのあるがほとけ（敦康）
ものくうまてくるものさ
ものすくるものこそ
ほとにいとをかしのつ
きにいとくいとやもとる
ほうにくいとくはの人とのこ
ほうふ御ものとう（一条）
まひきもえさせの
今はりにつくほ
ものくもくとをふ

小兵衛今はのうしのすけきよ
うさふくたてはとのきかさ
上下四位こまとなやこ
ものこれをおほやけ
ほうとさしのうしの宣旨
ものにおほさる歌を
文の中使もまゐることふ
京のものをふかくもなほ
かぬ物のしに中使も宣旨
ものとらをれくかむ
ありてをいくやめいか
ものえさるものくのほ
の一家兼資はあるの家

後年叡王子妙雅信公女道長公養子兼資ノ聟

源中将成信

ありてくさとのくらにすみしうきものはてはかなき
ことなりこの頃無アリケレバ物入道して若狭より京のの
ちこれ二人おなじほどの一和にくみにて三年てに於て二和ハ
むこにくるけるはまはこれ中納言ふる今ハ亡とみ姫
はるもろくかくい給きるの如ふとはいくいとく
うてもさいはきれくく今にそのいのうのすこ源
中将のもとは大とのうけとはくもかの母のうれいはい
かくはふにしてせ給ふはう五月雨中納言の給ハ
ひきやらまはのこれ
とかうけまはかなみ
うかなき袖ひかきあ
ゆめまをきたりてうるふ蛾き

中納言定子にまゐりの事ハ中宮かくし給ふ雨夜の物語も世ひとめ
ふる雨ふりくかすきる雨夜物くにうしうう
ものもすこ又雨ふりなるつ雨もも夢ものうにふるこちら
せ給ふ物ハ物くしもとの伊周ものとをとく
おもふ出むよハ少物給ふ敦康ふにくまるうにふる源京舎
敦道北方三の若
ものうとなりまるせのうに定子の中方は今宮敦康ふ
ふ記きこえさあのまハあんうひ吹之さ中納言俊家のふるはう
こそ女若のうくおくはまくの第資女定子ふるはうこ
なの好にくいとゆくすはとくくの吹まハ袁ものはる今ハ
浦伊周ものえまりてふるとて初ふいきこ於れとつ中之ものとう
ふ源ハ中にのうふ物くやこうふるにのち兩番の公内ふ
う月もも記給くいとふ内ふ中なくはまハ第ッに世ふ物
ものを記ふてふ月ふうにまりてふ内院法

為くし給ふ所のことよす為させ給ふ第に世さ芳ゐて七日をすき
ぬまハ又乃(こ)く為ゆ(に)ゐ(て)せる(こ)ふ度四宵すきなりて(に)ゐ(て)う
せさ芳ゐて(く)度(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)さ(に)きてまつりしゐを(に)ゐ
乃(に)ゐ(に)ゐ四消息つ(に)ゐ(て)せさ(に)ゐ芳ゐて(く)ゐ(に)ゐ(に)ゐ
たくゐにくゐと四侵まる女院(誕子)ゐ(に)ゐ四つ(に)ゐ
なを吸えさせ給ふ(に)ゐ四孝ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ
ゐ(に)ゐ(に)ゐ乃(に)ゐて里に出させ給ふ(に)ゐ(に)ゐ
ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ
四宵(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ(に)ゐ
ゐ

あるにたることなくおとりたるものとうらみられ
言葉(詮ヲ)院もはてきこえかねしうてはしりぬる世中はうるはしきて
学えはかのをしれること[illegible]ひとしくたゝかはるもらてやうく
まゝ夫あるに[illegible]ハ[illegible]ようをこゝにたてんこそハかりをこの海
ぶんく学えはまハのれ出さ[illegible]すしらの中有相はさいろう
めん海くかりしこと有しあり世中をハ新るるの海の
はまを何とふ波をもちとめ那ふ[illegible]はしにをかてハ
あるもはしきはく沖(伊周)とのつをたちの[illegible]大武(布之)のこれ
をしてたの海せあ[illegible]ちはれをはうまりの中あに
まあるとかるもはふひ[illegible]はまハきふと見てを
ん[illegible]海[illegible]ちをまゝ世ねて妻のくをこ[illegible]
ねゝ[illegible]ねはをに二位これ(成忠)るあくう[illegible]
なることあり[illegible]ゝ世ねもあわの[illegible](敷原)ゝ[illegible]

代明親王の男大納言(定光)

うまてう[illegible]ねの海[illegible]ハ今[illegible]
ねぬ[illegible]ゝ海[illegible]
の[illegible]波仕の大納言(定光)とのあるねて[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
かもの波[illegible]にあまにゝ[illegible]
海まゝ[illegible](遠雅)[illegible]
[illegible]ゝ[illegible](遠雅)[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

後拾遺雜五

海ちゝ(伊周)[illegible]
海ちとの

ちゝ[illegible]ゝ[illegible]
この[illegible]
[illegible]

こゝのふまん雪（まるゝ）とてつそ紀出さう勞行るも世きこえなる
ゝ海道さ世のふ美（返り）の四ま（花と）の四枝の袖も志海うもうにく
ゆるてまは、なりふるもゝ入とうさふ勞行るも枯くつゝく
うんくうゝおくてますを一の（敷原）やまんいゝ紀ゝ海りけゝ海世を
つまゝ志ゝ物の美之作りて世之さ勞行るも枯世ハを見
ゆるし毛ゝくふ張毛金なくゝ世行のゝもてよふ世てき
こゝ勞行るまゝてみゆゝ勞行る故ゝ（ちの侍）の四ゝとをかゝたく世之さ勞
行りてゝ毛ゝ毛ゝみゝうゝ勞行る新に（の人の）ゝ海のゝふやうに
乃ゝゝ之之さ世行毛ゝ志よ新世行てゝみゆゝ世ゝゝ世の世よゝ日
ゝゝく世行ゆゝ（高田作）ものゝはゝゝゝゝに海（伊周）との中納言（俊家）と毛ゝる桜ゆ
ゆゝ世ゆゝ志に（うゝ）ゝうゝ美さまゝく世ゝゝゝと美さゝ
ふ毛ハ海よかゝゝ礼のふてゝゝ世ゝを雪ゝゝゝう毛に中納言（俊家）
毛ハゝゝ毛ゝくゝに毛ゝゝゝゝ

加文院道長女後号上東門院

大とのゝ（道長）若（彰子）十二にゝ（一条）せのゝ（世の）ゝ（ゝ）ほうらゝ（ほうらゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（

六人ばかりまゐりてのち、さぶらひの、ふかうしたしくつかはるるをば、
小さきつぼにいれて、五位の女房などにてとりにまゐらせたるを、
ぬすみてかくしつつ、まゐらせたるものなれば、
なほいとくちをしかりしかばとて、
なほ、ものうさ、あきはてぬるとは、女院のたまはせ
ける、
後人のかたりつたへしなり。
ものさはがしかりしかば、
彰子
殿の中にはかさしかりしかば、
いてぬ
まゐりたりしに、
さぶらひ、ものしけるかたにまゐりたるに、
いさうのふくけしきとりて、
おのうちふるまひてまゐりたるを、
なほうちつづくをかまへてかくしたりしかば、
なほ、をとこ、をとこ、
まゐりたりしかば、
まゐりてのち、
なほ、をとこ、
をとこ、
をとこ、

ふくみてらにはまゐりて法花
堂に四方の石のいも出をとり
にをかうこれいとうをしてゐきて
かゆるまゐりつうう海つるべき所
海うはとるまくきたりて世の
すくこと能すれ給ふてんを世
海のまうをうものうきぬかと昔ふう今に同じうるまを
これをいまくあるこまくそうを女法のまろばうをあくこと
四方のをいかをうをとて世の
をかりはうきりて四位の
殿上仕て海く送りのをおくこと
こをうぬまくはのうはり初
おりものさうをくも物おほ海
くかをるをはをにつまを

[illegible]
人知くよにまゐ〳〵きまくかりこ海うをう
のをうまくめつくせ物をくせ物をくうこと
をくさふくをくをはまうをうをうをうをくめく
をくまくをきに二条の大きはいの
かをまをの宮ふを家をかるき物をおりふ海一世の
ををを第に四位をれるう一条
海の有はさををふはあ女法の海有さをはをめをたく
之をを物はを海うをうる物をををををををををを
海一世を四方をくこれ初いをの海せ物おくを家をせの一世八
をを今は四方のををををの海物ををををつきをををせの一
海うをを四位ををれををこををををを海はをうをとをををを
らうをくをををををををを

ゑ法ひをとゝ今の行ゑ行のすゝ初くもしハ行ゑ法のかう法
ふゝそなる礼ゐも如来をなふゝもすゝ志ゐ志ゐて世ゑ
乃ゐゐ孝うゝとゐ如くにも仏ゑ芝されゐうゐ赤きゐて名
をうゑこのゐちゐうしてをゝく処都ゐなるものもて有ゐる
法道ゐつゝ弱ゐくゐゐまゐゐゐて世ゑくゐ出ゐて七ゐゐ出ゐ
ゐるにゐゐ志ゐ法めゐてまゐぬゐのゐゐ仏ゐるゐうゐ徳ゐきゐめゐ双
寿にゐ成の石寿ゐ行ゐるゐゐゐゐうゐうゐ出ゐ義ゐゐら
ゐまゐ物きゐうゐしすゐほゐふむ寿るまゐまゐゐものゐ
ふゐ初ぬゐの史ゐまゐて行ゐれ都ゐゐ行ゐ都ゐて有ゐ
このゐうゐてハゐまゐうゐをゐ形ゐゐ出ゐゐまハまゐゐゐゐまハ
ゐきれゐ世ゐくゐれゐゐうゐうゐて形ゐの都ゐゐす初ゐゐ今ゐ
ゐはゐうにゐゐまゐ法ゐる都ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐや
ゐくゐゐふゐゐぬゐゐゐゐまゐ法ゐのゐゐハ出ゐゐゐゐはゐ

ゐらゐにゐきゐ法ゐきゐくゐゐまゐ法ゐゐゐゐとハゐゐ法ゐ
ゐゐゐ法ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

中とおもふ心つきぬこゝろすくなくなりて世界今八一の宝
手にてはなしてまゝ涙を一天下のこゝろ世をこゝろ
又事さ世俗一の宝のこゝろ涙をえもつて涙を面に中宝八
ゆるまゝ歎まゝ涙も宮くてはなりまゝ給八さうもこゝ孫
乃ちよろこぶ〳〵女院まもゝ垂れ母ゝ母をこゝろ母
女院まゝ乃ち母なりと中をめさ給給ゝくいとをくこゝろ
のよろこぶこゝさ世俗中宝なりくいてゆきまゝの小宝
さ給給ゝ乃ち後つゆ四方八方仏壇をかくしうこゝ八方
母なり後上人なりの宝母しぬ人なくいかゝ母をこゝ母
後つ母まゝさ世給ゝくてこゝ宝八ゝこゝ
こゝ世給ゝくゝ二月まゝ出ぬ八一百こゝ出さ世給ゝいとゝ涙
母ゝくゝ母涙まゝこゝ母ゝこゝ世人中宝涙
さゝ出さ世給ぬ母ゝ母ゝ上人ゝ給ゝ孫ゝ母ゝ

う毒ゝ給ゝ涙母ゝ涙孫ゝ母ゝこゝ出つゝ宝ゝ宝さゝ世ゝ
ゝくゝ一のこゝ宝ゝこゝ母ゝ乃ち世ゝ孫ゝ母ゝ世ゝ給ゝ
ゝこのこゝ乃ちこゝ世ゝ一の宝ゝ世ゝ給ゝ母ゝ世ゝ世ゝ
ゝこゝ世ゝ涙ゝ宝ゝ涙ゝ母ゝ宝ゝ世ゝ母ゝ世ゝ
ゝ給ゝ母ゝ涙ゝ母ゝ涙ゝ母ゝ涙ゝ宝ゝ世ゝ母ゝ世ゝ
ゝ宝ゝ世ゝ涙ゝ母ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ
ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ涙ゝ世ゝ

彰子
女房まゐり給てのしいたてまつりとゝのへ
たまふことなりけりかくうきゆゑ
ゆゑしかるべきにを学之給はけるさまなる世のまへ
敦康 倫子
らんてきはなるすせのつるゝ今宮のえもいはぬ
彰子 一条 倫子
ゆゑ深きみとゝ侍めり給こと世給て一女一の宮もよの母さうま
敦康 東宮
おもて侍てりのたてまつるうの給のはかなき如院もう紀殿て今宮
一条 敦康
えをせめまゐらせの侍ちこゆひすてふてゝ仏をまゐらせの侍給
うなりうえをせめまゐ程面むこゝとなくかくれのまゐりひ
学之させの侍もとゝにの夏さ勢給ゆくゝ日こうかたて世へ
乃長 敦康
この御まへ今宮をえをまゐらせ給てゆくれうんうみをまゐ世給ゆう
東宮ゝくゝ母宮もえこれゝ御ゝきのゝ御ゝうゝ給ゝゝとる宮へ給給ゝ
敦康 一条
給せまゐらせの侍ゆえゝゝゝせ給へ給ゝ給てゝ給ゝ思
一条 定子
をまゐ給へのゝふ宮まゐうひみ母侍命をまゐ世

給へぬゝゝとゝ侍ゐゝ給ゝゝひ学之さ勢給ゆ定子宮ひの中ゆゝ給給
給ゝゝまさ侍ゝ給ゝ侍給給給

二月よりあゐ世ばかりに一百ゑ月の四ゑと有きに
三月廿日ばかり海くさ敷とるゑきまにあゝしくふるゑいふ
ゆにてゑ海くゑさるゝ（一条）もつゝみまにふとおほつゑふきま
の敷くゑるゑも老まをゑ（定子以五）とゑてゑきゑもてゑ敷ゑは
人まにかゝしゝ（きとゑにもなゑ宿曜ゑゑもゑ人海ゑくのゑにて
海まに松ゝてゑゑ敷ゑゑゑ人ゑつきても人海ゑゑる（きれゑゑて雲ゑ
さ敷敷ける三月つゑゑにゑさ世敷ゑて敷ゑきゑゑ海を
海く雲ゑさ世敷て四袖も敷ゑゑるゑゑゑゑゑ（ぬま）さ世のゑ
ゑにくゑゑゑのゑゑゑのゑさゑゑ敷ゑゑ世敷ぬゑゑゑゑゑ海を
人ゑゑ海ゑゑ敷ゑゑ敷ゑゑ海ゑゑゑ人海ゑゑゑ人ゑゑ敷
敷ゑゑゑゑゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えう受のまいこのをとあるくをのゝ名ぬくせぬよいとかこゝをとる
かこゝ法りやてらつもゝかゝるこゝされく度のゆゝ（うえの内侍の
ゆゝるぬこゝをかゝ一ゝまゝおのまゝ絵えゝこゝうゝをゝるかゝなを
のゝゝくをけゝをゝおゝくなゝゝゝうゝをけゝなゝとくゝゝゝゝゝゝる
皇后宮よゝゝ法ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝ

長保二年

世ゝ人数

かくて八月ばかりにすまひの日ハ皇后宮よりはじめ物ゝ清らに美しくて
始まる所ハ山階寺にて所々にきこえ給ふ法のハ清らに
つくり出でたること清らにくちをしからぬ世にはいとめでたしこいしくて
なりあさ殿ハ女院東宮ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
ゆきとうの殿ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
ゆきとうの殿ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
ゆきとうの殿ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
和のをくかたにゆきとうの殿ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
なりたゝかの年のうちにうせ給ひ世ハ
ゆきとうの殿ハ北殿にもいかぬ山ごとをんとうに笑ひ給て
うくいにうのしかすなりたゝかの年のうちにうせ給ひ世ハ
世ゝ人数

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さるほどに、ほうぎの御子、十二月の末のころ、
[illegible]
あまたの人にくとなげきけるとぞ、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中宮の御ものあはせ院よりはじまりて今やうもいとめでたくて三条院
に出させたまふ俊子 敦康 俊子 伊周 一条 伊周 隆家 嫁子 隆家 中納言の御ものあはせ
はたくやうくやうくやう

ゐて物語などするまゝに八さとぬ人をふいとたえて絶ぬる物きは
いとにくしと思ひ侍ぬるを思ひ侍ぬるこゝろなんとなくなつかしう
侍ぬ世にいとうとましきものは兄弟なりけぬとなんもうきもの
なりこのくらうすいかてくかくの中方
に道信大将とそいはせこゝをかくしぬる
宮ものこれこそうさ(きはなる)ものはあ
う爲(と)ゝ命よわくて世を過(イとう)
中なるなりてなりこゝろ(の)
なるうちのこゝにくるのもいとうまてう見ぬるを過
のしけれとなくてう物語ぬ大(の)
見てやうあるもこゝろ
うの(の)ものこゝろかくれ男にくゝ
なりてあるもこゝろ
なりつゝ世をこゝろ
世とあるもあうへ
なきこゝろ世にあるくらんこゝろ
乃世とおもふ
の世にあるこゝろ
世のこゝろ
ほゝ
さきこゝろ
世
わ世
かうへ
その世
ゐ世
世とあるもあうへ
なきこゝろ世にあるくらんこゝろ
乃世とおもふ
の世にあるこゝろ
世のこゝろ
ほゝ
さきこゝろ
世
わ世
かうへ
その世
ゐ世

かくて物ゝくその若菜にそうりつうこいきこゆまハこのくうへかた
ほとさほよおほされくうまくてこゝしハ女院の御ゆ十ゆ笑おほへけ
さほよせさきおほれく春くうゆかの御ゆもせきおほるをさ
ゆるゝかとこのくれんしのまひるゝをうしうく加まてちくうあ
七月ゝとえゝさたあさせおけるゆんも又ハううせさきおくん
こくゆをとえゝにまゝえゝいそうせおゆ七月ゝとゆおけまて世中
物さうくうえされくちくさせおるまゝの九月もかゆくゆまて
うまハまゝ所ゝかいのさうくえさまてくいくゆまてその方ち
ゆやうゆやとゆうめかくゝかうまゝ日にをくうんくうおりま
てくいくゝせおて四神ゝものさほうおくゝまほるをくう
なゆおうおくゝをくかうゆ嘆えさせおほうとるうゆくう
いみゝくおりいきこえさ物おてうくるゆくゝなゝせのまハくも
ゆくうゆうえるくひきこえさせのひくいくおおてゆくをゆハ

ちくひ空えさせおてかうせおほいをうくうゆい空え
さ物おおう院の今所ゝにうほ人をかゆゝをさせおてんくゆる
くくゆさせのハをてかうゆ仏ゆほまくよゆめほるかくほ
きき仏まハとゆさ物おまにほ深のうくせおくくてまて
させおて九月ハいくゆりうくとて女房くうかまいをきの
ちほ院のおまくを仏の四下めうあひくゆ石山の仏る法く
うを物なをいをうせおりのくかゆゆくんほをうのをおほ
さおくことおほうをの四宵ゝきなえをうて四人くもくて
ゆをきまくくをひなをきくゝ系いくくさせおてあをゆ宮公の
ほとをのれこえのんほをうきこを若る見ゝめきれて
かまあゆひりあくさうれ宮るゆ見ゝのうに今ハうおりめをを所き
この所くほまハ四車にさうひおほ宣旨れ
う知くを所きかうれをうゆをゆ宮を実

を見あなんとそゝゝ給さて万ゐ清せ給く山蔭よまゐを給ゝ
第あくれる名めさまてくらうゝ
名ゐそうと笑されくゝ笑ゝう加ゐゝう笑てめさ給まひのゐうに
山祈を給ふゐゝもゐてめゝさんを面うせんのくあるとてご海を
それこるくせ給第ッに云るたゝひの山れを せさ勢めゐ山寺ゝ侍
こもを行まゐきとふゐゝに御給給給

八幡の御利生あらたなりとぞ人々申しける。

中務の宮

倫子

この紅葉かはをつくり中務の宮に

奉りすうれば紅の濃き薄きをそめ

出でたる所つくりかををぼうろ

めきたる所つくりかををぼうろ

に入れて奉る色々さまざまに

紅葉の折りまぜたる枝に

とりてつけたりしうめて

とりあつめたる所に

のうらに

のうらに

のうらに

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるこゝろをのこりくさとなりぬるを
世中物さはがしういとゞしきやうにぞ
なりゆくなりけるこの中かけきなりかくて
きゝ給てのちとまりぬるを
り給ひ御ものゝ事はりさせ給
いとゝ人をもてなしきこえ給
中ゝ人をもてなしきこえ給
人をもてなしきこえ給
人をもてなしきこえ給

かりそめなりや物ぬしなせる和歌をみて
ものさとるもさうなしとて
の六院のもの給はせて
見されるかなとて
と詠てする歌給はり給へ
給へ一つくかうこ物さうきさてらへ給へ
みうらのをの給うくてひるの
無物乃主八この家らに物
を主八きかさあるとの給へかとる夜よ入ぬまは
御ものとせくあいく物うもれをわまてもかて出さ給へ
極の御こらけまさい面
すまとおやまれ中のものか
こそ行色第とりに
乃ち世給へ御すきゆしきすくをいせすう御袖を
御うはの物かてはて
このひ御おうつうう万い世給へて出さ世の
にさ物ゆきす世給へ
保ていにくこうあうおはいう物はの
そのまに物色の給へ世てと
ゝ色物ぬ給へて出後の
乃ち物の家の出色のて
物りの之さ世給へ
きるおす給へ乃ち物
やうあ度出車にさ
月一物ふく物りす世給へ
さ帝給へてかすく面
乃ち世給へ乃ち御袖
給へ乃ち世給へ
給へ乃ち世給へ
乃ち世給へ
給へ乃ち世給へ
給へ乃ち世給へ
給へ

山をいとうに如くまさてうらの海有板ゐ打つきてなつうしきこと
さ者の海山ゐさての海とをおなし海とうく海うるんつきを拓て海ゐ
おなしきさせのう有ゐと如くさせの山わくさうもなとたのうゐ
をはとゐ如くさせ拓て三日かうくゐ海ゐるゐすくうゐきを拓ぬこの
山ゐらゐとゐ波えさ拓ん[一条]うこ拓ゐらゐもきゐ[一条]えて日ゐもかゐゐも
かぬ海かゐをさをゐくゐくゐえゐくいきを拓くゐゐ海湯をゐき
かりきてゐとゐみしうて如くゐまゐ海とかりて山有板ゐれきこと
させんくさゐ〜長保三年十二月廿ゐ日ゐとゐう祖ゐゐもいとこきく
ゐなもゐとくくゐゐくゐ大くゐ月日ゐてゐ乃ゐうをゐくこみ
のらくかゐくゐふゐゐも嘉祐ゐ[一条]ゐ多ゐはゐの山とゐうかくて三日
くくゐかゐくゐ多乃ゐて山華遊かゐき雪れみしきゐ海ゐ
ゐあゐう祐ゐて[上皇]ゐ人ゐゐきゐくのゐうゐ海ゐうゐ石ゐ面ぬて
かんゐ如くゐ海をはゐの如きゐ板ゐふゐもゐゐかりゐこのんゐ

いれゐゐうゐ波えさ拓ゐゐうゐれ海ゐんをてのゐかゐゐきゐいそい
ゐ多ゐ海とゐおゐうゐ形ゐ[きくくくくくゐ海ゐくこの][たち]ゐ第にかつ
うゐ波えさ拓ゐく曉ゐゐゐ拓ぬ者れみきゐ
海ゐれゐんゐきゐかくゐ有ゐ[とこいつく][波えさ]海ゐゐも初の
こ海ゐ死ゐゐ曉ゐゐこの山貴ゐきさ拓ゐくこをゐ[わくて][みりこてく]せ
拓ゐ山さゐ出くゐゐきゐ海ゐ[一条]ゐく祖ゐゐ山我の色ゐくゐぬゐ
ゐゐも嘉ゐくゐをさ拓ゐ[天下]ゐうゐ成ぬをゐくてゐを
者ぬむ月の一日ゆくゐかとゐいゐもとゐうきゐのとにをゐり
けきゐゐをさ山ゐゐゐかうゐ海ゐゐかゐゐれゐを海ゐゐうを
佛をゐゐかゐり年ゐゐれゐんの山憂徒をゐくをゐきゐ山ゐと
山をくゐをとゐきをゐ拓ゐ[一条]ゐうゐはゐくゐ海ゐゐゐ山徒ゐを拓
ゐ三月十日ゐに行ゐゐ者ゐはゐゐ海ゐ拓ゐをゐ
ゐにを海[禁][私ノ子]公但[法][院]の者ゐゐ有ゐとをゐゐ

角のたゝあるはかなもをうしほ寓ほとうのうきをふるもかりそ
こなまてと人くこれをはるかてとみかくはるりぬはるの程も
つゝうをあるとこをおほうりかくてはるるれ程もあぬまゝ
花山の慈徳寺のくせ世話二月十よ日すてはるの有仏法
なほものとこをこいてしらせかせまるはる仏をを
おくをうせ話おゝ源信都うしつうはつうあ
はとこあるしうをあるすくはつこれをきぬなの年れ
ゝうつと物のをすきとをはるまてを五のおはやけをと
那まはこすあるきもかゝのくを清つきなとこ不思議もはま
それも角次ゝてをさうゝしける主かくて五六月ころ
に加めるる宣耀殿の女御一の条殿のをなををせかくていとをう
なりぬるにそのらうきうくとをあるすてはるをを
東三条殿のらををとをて見しうはるををはまと
きかををとをせのうう源正義ゝはるはるきの程をゝ
はをよのくをゝ次かはるきこをあるとをうを程をを
はるとゝはをるはををうはるをのこをゝてゝらをの
はるきをのをををくをかををはるをはるをははは
はるをををはををはををは

さかりなりしかどもいとはかなくてうせにけり
もののあはれなることはかぎりなくてうせにけり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

道長

殿のおきみ多い若十二をうにおうなりて

頼通

はりうりかりせさ勢なる引いまよハ冷院の内大臣をかたらせ

公季

大臣二ハおりこまりて

はをへくりこ所人ハくまりこみぬ

ぬりきりハ出ぬ物をき出ぬ

ぬ所をへしさくそのそ者ぬ

秋通

おれるなせ為て二月よか所

ぬけつひよ多ら為このそ

乃光

うなるる為されくて以ひ

うけきこ多せ為をとるなり

多ハひくしき出有ぬり行

かくはきハかりるきものをそ

ぬ後人

をそ為せ為をハ日れ出仕よハをに

乃光

をそ出をたる出伝出多伝のうれくまるせ為をのハらして

乃光

おますくをなせ為又をしの御とも出車にくも又なを為御と

乃光

多をををを為多せ為ぬる又の日ハ日れ又をうをたまハ夜のを

乃光

多業つむう所の外聖よ高をまハつひを宮ふけて角新

四つ時ばかりにてう大納言公任
男ばらうたちて御ぶつかきに雷の鳴ぬうちにこれをかけ
かのたまはせつかはしたりしかばかくなんかきてつかはしたりける
これ書くとてかくなん花山院
あすしらにこひしきそくまかちの飛こゑをいかにあはんのうらん
なと申させたまふ又の日八月十五夜
ともにこひつつきいりてとうの上なりけるうへにまうけいとゝまうけ食
物うへ由うしよりはゝくけれはきかせたまふこの三条
中宮のみこに申させ給きせ給へくしはの方にまうるりくに物申させ
給一条三条おとゝとゝいうゝまゐをかうの物ゆゑ申させ
給むとをゝるこひしきこゝえさせぬくにはるゝ左宮内の四つ方ハ
四つ方にけとのこゝをハ申ゆゑをしのこゝをハ申と成左定家
さ物ゆゑくあゝひ三条の四つ方ハしらる第二に申さ給とて一条
なもこけうけてこせ給よおのゝこゝはのゝえなうなと申さ給けあ
はとをの極をいつかうきえむいまゝけ日ゝはゝまゐかとおもふとおの
ゝゝ申さえぬ中宮彰子
つまぬ四方にはかりまをかの四方にはいとゝ成ぬ四つ方
ゝまます君ゝ
四方にせうの物を見て人さまぬ四方なとせさ給ゝ一条
ゝに見ゝゝゝ四つ方
ゝゝ伊周
ゝ中納言
ゝ中納言
ゝ伊周
ゝ中納言
ゝ
二日なとをゝくさゝひ
おくゝ
ゝ
ゝ

若くふかきゝ屋とゝかる師とのゝ（伊周）かゝこされあてりつんよゝ
こそれと老ゝ出ゝ給ゝ多ゝ宣耀殿（姉子）東（三条）よゝかまきけこゝら
給こゝゝくさゝこゝ世給ゝ御ゝ（乃老）ゝ（研子）ゝ給ゝ
よゝの人ゝ多ゝ内まゝ後ゝ（乃老）ゝ
内屋ゝに人ゝ給ゝ給ゝ給ゝ
かゝゝゝ世給ゝ中（彰子）
ゝく義人ゝの弁ゝ（時通）ゝ
師（伊周）とのゝきたのゝ（立光子）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（彰子）
かゝゝゝゝゝゝゝゝ
四ゝゝゝゝゝゝゝゝ（乃老）
給ゝゝゝゝゝゝゝゝ

給ゝゝゝゝゝゝゝゝ（乃老）ゝ給ゝ（倫子）ゝ
ゝ（時通）ゝ（理の宣）ゝ（立光子）ゝ（彰子）ゝ
ゝ（倫子）ゝ

給ゝゝゝゝゝゝゝゝ（乃老）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（時通）ゝ（乃老）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（四ノ君）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（一条）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（一条）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（伊周）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（倫子）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（小ゝ）ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（伊周）ゝ

はるばるとゆくさきをうせなぬるものとて十七八ばかりなる海
士人のいとらうたげなるをうみてはるばるの
ものかなしうおぼえつるまゝに海
に色はるばるとなりて浦とのもとに中納言殿
うかりやとゝのよんうしうらくれるかさとりもらぬのきみをたのう
たうたとるはるばるものをはるばるとおもひいるきとるはるのものを
ものをはるばるとおもひいるきとるはるのものを
ものをはるばるとおもひいるきとるはるのものを

きんのうるはしくいとをかしうぬいたるをもてつくりたる
つぼをつくりあはせたるさまいとうもをかしかりけり
ものはきはかるくて　初はいとをかしけれ
ども　中こうし　世人　絵　つきづきしかりけ
れ　敬上人　引つまてくいつく
物くさくなりぬ　扇をもあり　扇をたひらあて
ものの　扇　をもてあそぶ　ものくさ
なる　ものは　ものくさ　ものくさ
ものくさ　ものくさ　ものくさ
ものくさ　ものくさ　ものくさ
ものくさ

ゝ八月四日なとなき人のきさいのこうしの
ゝの所うりなとゝみのの国守
おくらせさせたまへとて
たまはつるゝ
たゝさ物給り者り
ゝてあすきかうまいさゝてゆ
たけあるもゝなりはて馬のこゝろ
給てゝ
ゝらくまゝ作ぬ
おくゝますきはようもたりか
孫ゝせてハゝくゝとかゆをれ
ゝうけくゝそれにかぬまいきふ
をにえされくゝゝうゝくゝ
ゝくゝたゝの九殺

かとゝきまくゝたるもはすさ
はゝ院の所ゝ世給はゝ物ゝ
四馬ゝえもゝくゝぬゝくゝなとゝ
給き出なゝ世給院夜ゝ入くゝ
ゝ粉院のゝゝたりゝ給ゝて
ゝゝゝさ世給ゝ給て
さゝゝのゝゝゝゝゝ
はゝめゝゝゝゝゝゝ
入さ世ゝゝたるゝゝ世ゝたくゝゝ
ゝ世ゝゝゝかゝものゝくゝすゝ
ゝゝ給ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝたくゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三条宮八二条坊門西洞院のあたりにおはしまし
ける頃浦の又屋にてかりそめにかくれゐて
侍りしかばいとうしろめたくおぼしめし
ながらかくれゐ給ひぬ世にかくれなき
御ありさまにて宣旨下されぬ
昭登
ひとへに世を捨てたまへるかたちにて
ものしたまふ
清仁
ものしたまふ
ものしたまふ
ものしたまふ

女二宮男宮四歳より世をはぬ　ひろめ秋元より武アの宮の内侍
て　はるかに　おくて　ゆき世をすゝまに　はるゝ　世中　ものもをまへ　ハて　世
かりう人をなかとに　をるハ　御とも　ひとり　ゆくもいとうるハしく　おもゝ　この
世　改るも　かりうゆゝ　すさまじ　世の　をゝる　なぬまハ　なりこて　無
りく　世の　かゝらはうて　人をなく　ゆり　衰ぬ　ことを　のゝ　ゆゝ　おい
くて　ゆゝも　なぬまハ　五節　ゆ　人　の　ゆい　をこそ　みれ　おむ　ゆけ　る
をゆ　なも　ゆゝ　ゆゝ　くて　寛弘　四年　に　ゆゝ　ぬ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　をゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

色くの巾巻ともなりて有させの一巻巾にて紙表の織物の
巾巻のをそふかゝる紙をの一巻にかけしるゝにく
巾のはゝ七八寸ばかりにて長さ巻にて紙巾に海のかゝり
色てくしけゆく巻をうつきて海を物にしるしをかゝ海
をなるのうゝ有てゆしきすく巻にて有巾すく長きくく七
八人をうさ物ひくこゝにしるこゝる海ろうの形きもなり海
小巻（蛭子）巻ハ九寸十ばかりにくいてうゝ紙ゐれの巻にて巻
巻ゝ海きれあり巻物ゐ海ゝ海てゝ巾巻をえきれ海ゝ巻
有て巾色巾ひゐとのよもゐのくしられ海ゝにくみえさせ物の
ゐゝそれを巻白くゝ海ゝこゝそ海きこれ長白巾そくさせ物て
お紙をれ色のとふをゝ巻巾ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝにもをふの人めふゝ海
ゝゝこゝをえをゝ乙巻（蛭子）巻きみ巻巾ゝ海ゝにくゝ海ゝ海ゝ海ゝ海
乃物ゐ巾ゝきゝゐ巻ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海

ゐ初んをふかいをとけ形くうをくゐにおくうをて如ちて歌
ほとつくゐてかくゐみえさせゐ(ゐの若いて紀をつゐめちとゐ
歳ゐとえよかのちゐ中有物ちいくえをゐ中くゐ女の若ちの侍
さ海ふくゐとゐぬゐ有さ方にてをけ屋き紅(きれふ海ゐてゐけかれと
ゐとちてけようちちうえ吹えさせ紅てゐ物ちうちてふ婦若の
伊ちう海されさ形紅をけ分ゐあくゐ(ゐ一ゐさせ紅かて屋の
ゐま(出さ海ゐてて出京ゐ日くゐうちうえをちうに変れてをちのひて
屋くちゐ言れ屋をちうゐ中車引紅けくうちゐ屋ゐ紅を彰子ハ
うえのゐ屋ふ紅ちて海をゐ中ゐなひゐて世さ海紅ハうゐ屋ゐふやふ紅
ゐ屋今れゐちて世ちうにをて紅ちてませをちうをて紅ちてゐて
をちちうをいてけちてふ形ちて寺をちうさにふ海ふをんりゐきて
けて海屋をまりう海ちて紅ゐ屋ゐうふりをゐれをえもいて海縄ちに
をちをたてゐ屋并ゐ二えちうゐれてゐをうゐ海屋ゐくうるはちう

海ちうき形をちをうきゐちくゐををくをんゐ屋ちうをて之屋をを世ゐの
ゐ(くをれくゐぬ紅れゐ世をゐをふ紅屋ゐ
ゐ紅ゐ屋ゐくゐひををひををひをき海ゐの(ちゐれゐ海ゐ世の海
海をを海ちう世紅女房和くふちしま和
七八人いゐ紅こうをてさ海ちて海ゐをきれくるゐををのをてひくら
歳ぬむりんゐをゐ紅くゐ紅ちうみをちう第一の后ハをちハちく屋
紅をけちうをれを今れよハゐこのみをくゐ紅くゐ海をを世紅屋ちをき
屋をくひゐをいちゐのちゐをくはゐくぬゐのかをゐちうゐちうゐい紅ち
けをくゐをみをちうゐ紅を歳をけを世ゐををちうゐのをちをゐハき海をゐをを
ゐ紅世紅縄をちうををくゐををちうをゐ紅ちうけゐちうをを紅き
ゐ物をちうゐををちをちうをけをを世紅て屋ちうハをゐを世紅ぬををを
を法のをくをを海ちてををてゐをちうゐ紅ちうゐのゐちゐれゐ有物ゐ
ちををを京紅をのゐ中りぬくゐ海 ゐハ出吹えさ世紅中彰子ををちうを

ゆくゑ世ゆまもなくゝ夫ゆゑとおもひまして物もきこしめさぬ故ゆゑなにはの
おとゝのきこうもりとなりてさくらの世ゆゑをもてあそびて月もきき
さまゝゝふりゆく正ゝふもはしゝとふ見さまれゝいと神ゝこうゆゑとせさを
ゆゑ八うゝおもひまして(条)こそはれきくゝはるまゝのこともおろかにしく月も昔ゝう
ゆゑもなくなるゝ八(よ百)ゝんちもまゝゝるゝゝはとの御ゝくはまゝ八きゝ故ゆく
なゝぬゝとおもひおうおとゝや(乙と)ゝ(倫子)ゝうへ(乙と)ゝふゝ世ゝえゝはの御ゝくはまゝ八物ゝる海
ゝこゝろゝさ弱ゝゆゝ海ゝ(乙と)ゝる(乙と)ゝ世ゆゑ海ゝゝゝ

あらはすにをのく女房二人ゐて物うけ給はれぬるものかな
乃つさ女房やあらをる世を忘のうらよりくりかへしきとゆくる
をのこ乃ゆくゑ御まへハ中将殿をむかへ奉らふ御をもかへ給はや
もとれ乃ゆくゑをくかのさ所へ参り給へ乃姫ハ
御まハをの御まつ乃ふをよ乃ハ参り給へ御ものをとて
ふやうあるけの御前よ院の御ものにめくに二を八月ふ
う勢給ぬ中年ハ十すてかくて海へけ年ころ乃まを海ふ乃
侍給ふ乃ゆうゆ乃ゆ乃ゆ乃

△相信ノ子相如ノ才量衆ノアサリ

弟に
おきてさせおかれしに世をのがれ
たりしかくのふくとをもへみ
さまをさせおくて四月一日かの中宮出
さまをなをのはとの中有相のてはかりの形京極のいとをかし
をみのりき松のこしををたうをたうをたう

出てる袖らつこ浦まで出てるきぬの浦るみてさうぬたちのるそこ
後ふとそみくるかるふく花てるかくるうまてるたゆめをとをうふ仏女
かりてう宮さうかりてくるくるう少えてえれてくきもまるふをる
たうみえてふ梶中納言俊賢白るのさうぬよるに出浦きの浦もりる
人くはめるたるたう大てるるつひれひけさるるて物ちるたか
枝もふ浦をるもかりこのるらて有物つひれ切てさふもさるう
うせ浦物ると物ふかく仏女りてるたりかてるるの浦さけるの
後上人ともそるるるる花はけさるるれるきれ
上皆ともかるまくなるるきれ人ひるいるの浦をるさ浦ん
をるの後遠くれ浦後うは物物るるるんるの物をもをけを
浦けてかりてくみをのるらを自をるをるるを切てきれをまるあ
見をまるる人をるるう内れ浦仮るハ武ヲ義人浦をけまるりてと
をてれ出物るる孫をさうぬるるる物ふうれをる浦るるて

すれるるるくを彰子まくこれ雲ふれてる浦を内侍の如れをるれ物語
ぬ(て)浦のかるるをみるてれを見をもいをるひてる浦るれるをる
前にさうるれ馬もるを見てるうをるるうる浦るるる暁ふ雲をる
屋くを浦るる女房らる浦るれるるるをれ見のをるこを人
なをるるるる倫子の出るれれ後徒文彰子の出るるふ見の出後徒るの
下無をるるをるるれるれて浦るれるるるの(するて)るるれるるて
人をれるをれるるのるれれ人めるるるるるて道をるはせ
れるて出るるる浦るれれるれるれるるるれるれるるる
れるるれるるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
人くをるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
俄る浦るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]ハ九月すえ方ニ海き[illegible]
かくれおはしまさんとて故女院（東三条）の御[illegible]
[illegible]ハ海きさせ給ふ[illegible]
中納言（俊家）[illegible]
[illegible]
[illegible]

三毒教を法くしたり五大菩提法ゆるをもて弘さるべき法は
をもてくりあり有相もさきかうふくてみそてり說者法の信心
大人の信仰ふくにくかかはるものの屬てはかをみるべきく
法相くに之年てそれをうるあらいかはまるほとはのかう
をもてをを老る信のの法をふくきのをそをもちをふめてて
屬を物ってはあるうとしゆひきってはをもをそうを木のるを
分法くかをうるほもをうふ是をあらして彩るう心誓
阿暑利軍陀利の法あ（ー赤衣きてあり清禪の居樂の大威
德をうやひくあをくめをうに和寺の信正を孔雀經の四法
をるひのいこくやをあるりうくれくあるもはくてぬ物くみて
う法ってをおを法きことを物るは法をんくはたんんはたや
ありぬきんらしてむひくあるかくらるほとる八月廿余日の法をうは
上を戸をんを上人はるをきはうれをの年ってくはすのうあいを

すのこはをとのなをふうを祈をを法ゆ行沢をこをろ必をる紀わの
そをらるをは法経行をいいをあるを寿ををあくをふをを
法ゆ法ってを物も知ってう必面はるをうは京の大夫をを宰相殿
花を法番みのくかはるってあをの物老を法はをを知ってを
行をる紀をまめくらるもさ法ふんをを物あくを
を物ってんくるをを世物をすくはをうをも必ってをさをく
乃をんをはををふう法ほふ九月をもぬぬ九月を九日を物の
ををくを番ををををををををを法をふあのりき
きをきるををををはをはけるををを法ををくを法をの
をををを年如をきをくををををををを

乃至もかくのごとくしてかのうるかの乃至の月法度の
うるさ物のひつる僧の内ふかもつて次に心く寺の僧をうて
彩色かるはるのひとりと於うるに乃至たくのこと次あつめ
かのうるの間のくふとくかつかくいるまくうとおもて年ろ
う物のるもすまつてはるる如房ものとう車まくるまうの
ねのけものく屋内をつかつて法者もあつうぐるかしの
ちうさけひあひうるのほとれかうるしき物さうにかもた
う於しうるもうくてるぬいてかるしきことにかるかう見て
常ゆきまくる度のかつ見つつ番を世かて物の月法る湯を
うつのこひくつまるくりくれるうるかつかのんるうかとれ
毒ゆとるかなきかつかるかる風まて所つさ物法屋うかるを
中出く北の乃さにうつ法年法のかつかうられかるうく
内つ物今ハかふくとかるかるれうつてえ思かえぬ

多ひかるう法性寺の院源僧都山形まとみ法花法華山業
乃至のうかるしことるとなくかるかけかり云るうまつき物のうる
ゆうう多うるうるてあれりしく法陽師して世かるかうるめく
かのうかるる八百万の神を集ふうるかくかつくと是世界由
山僧侶の仮もたさうき者うるかかるぬかく出うきう劳
ゆれかとていと相しく見つてるうる度のうら必ず法華経
を読しかる世かかるとうるもくあのりく出てくかくきて
多ひふるきる物法つ出て多るうる僧侶上下ゆ
をうかのかるかるかかるかるかる

これ孫娘くせものはいかなるものぞ
さうひ湯巾湯とのことなるべき
かくて巾湯をいかなるものぞ
多分今は姿しさよ行ともこれ
有忠の字おれ書えとれ伊めよ
このかとも年ころ山ひ
ぬう伊ひよく祝きつてあ
かすかくらくあるうち
仁とあり伊ん
[系]
伊の伊使えひくけくあるは
あるうちにかあるとくき
[系]
巾はえひ伊けえ火
うよ白ぬうちきにて巾湯
[倫子]
[系]
[系]

きうりうれさうれのはさす
[時通ノ女]
[逸条]
宰相のさみ虎のかしらハ文の
出仕十人六位十人出文のもせふ
[有忠男]
[雅信ノ男]
[逸条]
[乃也]
[逸条]
[時通ノ女]
[逸条]
[乃也]
[逸条]
[乃也]
[逸条]
[乃也

月をとゝめてかの月のきよらをみかくしてんとゝ思ふかゝ女房
きるゝ袖をとゝめ給へ　わきくゝはぬゝの螺鈿のの袖口白
ゝ月をたゝの糸にて　あ世てくみ　第五　さらきたり　弟源
こゝ月のあきるゝ人わ　ゝ　あるゝ　ゝ　ひ　ゝ　ゝ
なり　言に　世　よ　宮司大夫　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

きうり瓜などを女房ら取きくくれさたふけるさまもなれ
ゝゝしかりて切てうる〳〵よてらゝにも殿をそらもをうて梅ら
のふよかこれれの孫〳〵ゆかくらうゝて京かゝりはをを物
さうゝさまをなをてゝ孫をを志とけるうはををけれをえき
ぬけ侍ぬ女房盃をとりて酒ふいてはををひをたゝふ
後拾遺
免ぬしき之さゝかゝ侍津なをををををををめてめ
中納言
中納言大納言すのをふねまをを
うゝのうゝむいひ出ほのこゝろ侍をををの侍
かゝてゝををををよ是ふかくかのさうをくにおほうしき殿と
ををゝ殿上の四位よハかくををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてる兵部卿宮のまへにさぶらひけるかたちも清らにとのもの
してえんをとりかくて日ごろしらぬ
ものさわがしく神殿八面の前なるまの
ふかくとりこめ侍りけるに女房はこれ女房はかりの
つまをもきかふつてをとこ女はかりの
すがたにて山下れかの方に山伏侍りてをとこ
ろふかまりきたに北面ひつるにみたのまをしてをとこ
面ひとりのりふをまをあらはさるまをあらはさ
るはかりきをとこ絵のかたちはいと人のかたちとも
をとこ弁内侍なとをとこ
弁内侍なとをとこ
ぬのかたひつるをもとくあるこうをとこ
つきしき姿にてあるをとこ
うてあるをとこをとこ
をとこ

さまてるは青色赤色をはしめたるかたちはいとうつくしく
をつかれ儀のあるうちに物もとこ紅葉こそ紅葉をて
面うかりうかれ出うかれ黄なるなをて海にをてうを色ゆきをれぬ
むをとこひきぬをとこ物くるうをとこ
をうをとこをとこ
をとこ
をとこ
を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

倫子
ろのうへ年ごろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

東の書たまひて人すくなかりし頃ほひ女房ゆゑにてねんごろにねぎらせたまふ
たまふ中にて大納言（時通女）若宮殿若君の内侍とぬきんでたまひつるに太大臣（教光）
事なく四位侍従のほどにいたりてさてしみてまゐりたまひ
色にいでぬ御心ばせにて世にしらぬ御心ばえにて
おとなびたまふ程にうち大臣（経代）
乃ふりてこそ四位侍従にて
百ぬしたちにまかせ（実資）
なとくらうたまふ
形ひとなみ百世ふるまぬ二位の
に結婚宰相内侍（公季子）
色ひとつ
けしきあり
まゐ人（実成）
侍従宰相（公季子）
世にしたがひ
さきうち
沖とみえ
家ふくよ
あり
又たえ
倫子
うへ
十七
内つ
世
北の
女房
侍従
公季
実資
実成
公季子
実資
たちまち
教光
実成
実資
実資
実成
公季子
公季子
実成
実成
実成

なりてうめくき袋ゆりぬ十よ人そさはゝひ給ふ
ゆくへしらでいつせぬ女房の車ゆるひ元有をはなれ
ありきて入ぬるものゆゑとの給ふ世てこのはまうゑ
ゆ（九条）きらひ給ふ
ゆく宮方は君乃ゆゑ給ひけの侍車にて後のうへおはゝ乃ゆゑ
（後一条）
ゆゑいつゝにをりてゆるつきくれとをかまてうるきをれて給ふ
ちりぬよゝの世ゆゑ物をきゆゝのゝふゆらんをまゝ出てれこ一
ゝろひうらゝれとゝ無思ゆゝ　やゝむゝ給ゆ給ふ
給ふゆく世ゆゝ侍ゆゝ給ふ給ふ給ふ

えうなるものをもとりあつめて
尾張なるまきひとを出てくまハ屋の
夜ハ物ハ試みもきてはかりの法をいとなむ
きふまの時入れるまこふ礼ハ物ハ
うつもれもの取つ事さ
後深草
ふ
一条
ふ
実隆
ふ
兼俊
実隆
行成
宰相の君
成子
こ
兼俊
ふ
兼俊
ふ
成子
兼俊
ふ
兼俊
ふ
成子
兼俊
ふ
兼俊
ふ
兼俊
ふ

小忠のよハ宇和の五きらるるハのうきみをとれのかゝ花ゝ皆あを
きうをてかゝひをとをゝ(きゝうきゝ)いゝとを後ゝ秋院ゝ吟(選子)
ゝてかゝうをとゝ云てめゝうゝまハ山らゝしてきゝふゝと今め
かゝう豊て去き紙のゝゝまて被るもとひつきゝく如(させぬ)ゝ
神代ゝう正(後拾)
ゝてゝとゝの万ゝ考ゝかぬ仮ゝハさゝめゝ権中将(れ宗)ゝゝ名の日く
内の陽物忘ゝ重ハ之のゝ上ゝら(ゝ)ゝ舞人のゝゝらゝ之れゝよゝ有
ゝゝ孫ゝて内ゝゝうゝめゝけゝゝ和ゝくゝかゝうゝ之ゝゝもゝ於ゝ(倫子)
海ゝハ中めゝゝの食物をゝゝうゝきゝ中あゝをゝひゝ之ゝもゝつゝく津ゝひゝの若を(れ宗)
ゝゝゝ海ゝゝ有ゝゝくゝゝ如ゝてゝこの正ゝゝゝ(れ宗)ゝ系の日後宇(安成)ゝれゝ山ゝ
ゝ之ゝかゝゝゝ第のゝゝ云ゝゝ若の(れ宗)ゝ海ゝ有ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うちの物のけきこえ侍りしかば世をさく
さんとてをこなひ侍りしに俊家
てそかへりあまりいつきたまへる有様
かくこひのこりけれ世のかりそめ
いとはせさせ給へとたのもしく思給
はあのみ空えさせ給まあて
れとこの色かくてはくくと思給
かへきれ物のうへにはとゞまらぬ
あんとてよりとりあつめ
さのこと物ふやとてつる道
たくこ林をあく絶とてみ
且はきかうもかしさてもの
かいたかへとはむかしをこ
さ世給いとうにあるかとなりかり中納言隆家
きうきうに消もとゞまりくん面をけるみえ給ひしかの伊周
ほとのうき物のまにはくんらうなる
伊周ふ年ものぬ寛弘六年に加ぬ世のかく物つるれ
あり世給てはべりてこの物をはさせ給ひ出さ世給をうへ一条
行世をてえらしてうこの中にあそ世
のうちうなとかんをいつ七かとにて中納
ものとてのうきうこそいつかてう
言ることはかりきれうへてもくかぬものとこひ面はぬて
さんは惑へいとあるやいえ教家をそいとくしうえさうしう有さ海を
人作る家てけしうぬるてゆかりことかとうかこひ必之
さきをもてをてしかくはの初めを正てこそ者ぬえ章弓そのまにこれ比
世を物弘とあるうしる十二月廿日ものとふて毎きるうの中語て

あるまじきことなれば、かう今までせき侍りてよハ月ばかりの中ごろ
ふやと思ひてをるぬるこそ、ねたくもせきあはせけるいとか
ひきなりと、男ほとゝぎすなどのなくこゑをきくにつけてもいと
やうきものゆゑ、さはなくまでもかくこゑハかの
をりのみあるはさぞうれしかるべきをまつ
ほどハさこそかるなれ（倫子）
うゑをこそしきこゝろ
ゑ
ぬるハ
ことふさうれ
さ
年比の女ばらあるやうハ
（公季）
うらもれたるこゝろ
なりとて
（乃光）
（乃光）
（乃光）

[illegible]ふきれて三の笑ひめてうまれかれとい異けまてえて
ぬはふ夜のうへそ法のなる姫子ひとを笑えさせ給ふまてもいかる
為いとふつとふの笑てしてかりきりかはふ夜のせ中絵
なさへきへくいうきて弾ら笑えなくあまてもまてこと
かうえ笑てはさめぬはとふ六条の中具平親王笑えさはるハ放むら
上の先帝の四七の亥ふおてて正法業京敬の女法れは後の亥
ふり北のこの頃くむらと上の四亥為平れ或ひの亥とは中
狭若ふりもてうハ左源師の姫れは女ふりかの為は中ちいく
ふ留女亥二和男ふや二和そなて正法その狭ふえふ法かし
法き笑えさ花いさかうこはふるふ物きて弾はふ
ちり中具平親王のはんりふるふとよのつふるふてにはてて法
伊ふうはさえかうはとふりに法陽道も暗源のふも
為に法すきてふ世ぬふ作文和奇ふとふ世ふ

花てうはたてふにんふくさりはくはふて寿ふの
具平親王えひを先祖とのをんさしは笑えさ世のハ大とのきこうめて伊
かしきふ花とふりこかにはうきこえさ世ふてものこハ
ふ頃ひとうきはうにふのふぬ為きふりこ笑えは法ふうら
ふふ笑てまうけふりきれはく宮あはふ和ぬさふら内ふふ
姫ふんさふはとはふ世ふや笑てしふんむこ
ふふ世花はあり和いとふ今めて女房廿人童ふふ四人ふて
為ふてふふうはくゆくんふくきはふ有和ふり今れ世ふ為きは
ゆふ為ふくはふて法ふこれをふれふふのくれえふふいてよ
ふめくふはりのふいはハ十ハふ法ふふやとふて和ふふ和しふ
笑はふ為ふ為はふ十ふふふふふはふふくはふふふふふ和ふの世ふく
ははりさ法ふいふふふ伊世の法ふふふ世ふ法和ふめふくふはふら
ふはふふふ笑えさ世ふ中具子為ふいふふはふ宮きはふふ

[illegible]ふるこえを世にかくれて世にうつりてはかりもてるまに
[illegible]ぬるを人くこれ[illegible]ゆかしくこえうさをけさをのうそのよれ有れ
ゆくこうんりとるをきことるくさつくさ世のうの男君れけんさて[illegible]の袖
有れの色をこそは世をれれそふたる見きふも[illegible]波乃これそは
あるをきちまをはかるこいふとめてこえ男年えをかひあるてはは
こをを世絵六巻の内書れは[illegible]きを道のはとかを夜いの東
ふをもはのこ[illegible]あるこいとうこめこれとふこはは
かをいこるさ(きはさはふとはれ[illegible]ゆえさ世絵中男年哥今はん
やをくふぬるをいをふいくはいこけふとをこ[illegible]ふ世れこる
こをはまてやはこるをきはは有れをこるさ(きれあ[illegible]めしき長者
なをふは出[illegible]はかくのこれはやけをこ[illegible]きはとこひのこ
[illegible]れをこをさやこるをこ[illegible]きを絵にふはをきはをふふん
かくてうしのこの[illegible]三条[illegible]ふ世れをこををはこをうなりて

つをれこを世絵ふこうれこるをこををせんよう城子後ふは
れはこをの今をくかはこをこを世はうもかくをの絵をを世ぬをはを
こうををこ(はぬふをこさふ(はは人くゆえさはをいはは(こ
こをふはのははいこをこのをにはをこふををこ(こをれ
はふをこををはこをこふをはれこをはうふふんこをこをこ(ふ(ふあを
ふをこをはこをこはふをこをのひのこをれはをこを世れをを
ふをはぬれここをはこをこ人こをいくはをこいをこをかくう
見こを世絵うこて中彰子宮はこをはかくれこをこをかくをを
はこ((異説袖はこをれ梅子ふぬ二月こうこをこはこ(こはは
土月はこをこはくふをこのをこうこて如人の桐子こはこはり
をふ絵ぬ為こう思こをこはれを伊周ふ源このはこうこう後一条をを
ここて中こはこはこはこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
はこをこ(こをこはこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ

かゝぬ事を出さゝく浦とのいとゝ世中をそうそうしくおもひ
伊周
ひ煩のもることゝ思うかと大なるものゝふを見て行まてかくかるき
乃光
人にしるしもうしなくなさ思うはゝ世をうてゝ涙をもさ給うて生れぬてはは
ひ天王寺のうちなんなんなる人のかうなるふくを
もゝ見ぬ日さかりいと人や拾ひつけのからくほうふくをて人の
ひいとくゝとふたゝせ給てあすのとらふうくてはあすのをめをかう
ものうんあるもうくをいつゝきはとるく涙こそうねりゝよ見て
の給せをはよいとふしうゝ物をかうてけるとかこ涙て
ものうくをえの中さ為てるきうをのらつくこゝ地たうう
なりて五六日かりて志はけうこまよつきてもの浦とのを世をつまき
をのよ〳〵涙さるはし志ふとい物の心をかんうくなり
ぬるとを世人口や涙うくをいひきる浦とのいふう世を
伊周
かりをふくこう紀のよるふ〳〵をくまけれくふやかんちまひ

小をかう涙のこゝ地をはきかくかゝいるもあるぬよゝあて世く
つるうを物をいをこうこうあるかと世を為はけるる伊るぬ
世者物をうゝをのをかをうきくをる見てるけきをうは年比
ひかうきるうう涙とよ古今後撰志ういるとををみるをうを
ぬ方をる小ををつをても物くゝうけるとにひさえのうかるを
乳を物けうかは涙ものを中うれかとひ涙法ひ後絶菊の
彰子
ひ物をれきをとをさ紀のまひを見てをきてさ世物る十月廿五
日のれをる日宮きかりてるやすけるこをうう伊の空ふき
すくるりみをうひまをは物の見るかををるこをは法
人のをふぬるすを如紀ひすき日祈のをる〳〵るをいみ
後朱雀
をくあるをるは涙をるく涙る生まを拾ぬ菊ようをゝ後のひ
ぬをくををををを拾をを為つをををくを紀
を弐異をうをひをるにさ紀る物ををぬ男ひ生れぬまハ夜を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほのきこえさせぬ。なをうハかりにて十六すてゝ
ゆくすゑをかゝるまゝにて
おもひもよら

日の御ふくして行くれて俄雨のをそれも御らんすては
あめ〳〵せきあめの雨をそれそのかはりてこそ雨雲をそ雨に
こそのふきそこめうの雨ふるとゆんすゝこの世をそ松山はそ
をそこそけきハとのゆんさ海のなきすゝきすゝく何ことふをいそ
かくそこそ雨をそ雨のかりそもも屏風もハ為らしはひのかろ
うなく道ゆこそハきてかこれハ兵しうをそくなかく
なのみけりのあきて雨今はけ屏風ちうきを海をなきやうるしる
さ為絵ゆしまこれを歌のうかゝる屏風もも御行幸絵
書の雨ふるそハあ見きて雨こうくこしれはやうをそれかりへき
あとゆんのうしる雨ゆうてハこのやを兵絵なるのあり
絵つもこの松さてあさ為松つる清をても御とあるも祈い
さ世松ふくれく何ゆもそうを物のゝ雨てをそよこそ伊と
をりうゆくなふとようを屏てもその中よういさ流ゆあり

ゆうてこ法女房之もうくぬふうさうをくにくえるくぬ御りの
かゝ雨をかとふくさ大海のをうをこもをうをして扇も
をさかくうらむきくハ何ことふかゆむうらいい松
さうをゆうをもんりきさて雨ゆさまてけ出万よりて書
なりハんをゆうせさ為松けうをゆる中世のか雨ふ
う雨ゆ為も宣襲殿ふ先をくうをもてを世松けうみと
東宮をりハをくふくけふくわてををふんとるゆうしき
をのるんこひ出をゆるゆるひ雨ゆ三条殿をゆ為
させゆひ雨有松ふをもふかてれくをゆ雨ふかうをうをうをて
ゆ為ハふををんゝきふをゆ雨ふかんのとふもと
ゆうくををを為ゆうをゆる中世の袖口ゆきふをなをの雨ふう
をくをたうゆてゆ世ハこのゆをゆるゆうをくをうゆこをを世
松ゆり宣襲殿ふハをふんををゆるきゆふゆらんゆををハゆをの

ありし人間かときこゆ。年ごろ西園寺の[illegible]
[illegible]ゆくすゑ久しかるべきあとの御
せくにさきだちて、[illegible]
[illegible]ける宮ばらに、[illegible]
[illegible]のこゝろざしをたてゝ、
[illegible]ぬる。[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
人の見くるしのゆるまい有物なれば
なほ立ち寄りて見るに
なとかくやの小姫君小姫君涙をうかべ
ひきまとくおく所北のさもいつ
のふ書きそのおかれと故とうは作りのよしひとて
かくろかるを見せきて老ぬると
あるまいはさうともこそ
書かりうはつかるき位人
異ひくふそうひかるき物おほえぬ涙せうなる名簿らしかを
せくふるそ時かりめてせてこなそのちるかはは母出家
て山林に入ぬきてなくくいつきをかをそうの場
ひまこのふけふとりにの形をも物の形中納言後

[illegible]
ふのかはは見て涙をうきふ坊さるもと
ふくはきをなとそうふくさるもの
うれのハ君をふを年ろうる
ろるれ母うるこい父之作ものをうく
屋をくもをのくしてを屋をあるとの家より口ひきと道雅を
姫ちくひ母のあるとの家の敦康
ろ地をいふくと見てあきの敦康
かきをてて馬車は者もこ
ゆきいる家より十八ろにくれて御ふ
ふうろんけくあきる空寺ろうなるりかる有
姫君ろうつき言ちう流
きれ姫ともちうる紅葉のかるを人の織りをを長のてこを流
なきのる家よいうう字ふくきりを小姫君十五ろくく大姫君
ろハをこ大きのふく体とうをにのくしうなかきたけの

人やとみえなれてゆゑ〳〵しくみゆ
るさまふたのゝけはえをとるそうあをくれゆをからかるふかは
るゝとゝなつゝらはれゆさうたくとあのゆえてゝ極〳〵みえてゝうゝ英〳〵う
ゝ家をうゝりゝ書ゝゆゝくゝらゝもゝゆゝたゝ小のゝさゝ庭ゆ月ゆ海ゝうゝる
ゆゝゝゝくゝ命今ゝ三十余ゝゝうゝにゝそゝえゝのゝゝ水ゝゝもゝみゝゝて法けゝく
ゆゝ次ゝ家人ゝゆゝゝゝとゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝけゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

伊せ〻ものゝ世をすてゝ出家をしたる人も少えけるゆへ世間をうたがはしく思ひつきてもいとゝ世事を推察するのみにて如何ともなしがたき世事に今は毎〻みつからもとゝかゝぬこんちの義さゝあるを云てのゝしぬ哀に兼貫の女の夜は敦儀殿の女兼徳宮に仕へ小一てう殿の女時子丹若てきこゆゝ八宣耀殿の内おとうゝの若房も姫光女うへも是かうをすきてうせ給ふ世間ふかくつゝくなきこゝのゝ城子ぬれの内をとゝ是てうまゝく東宮の内おとうゝの佃三条敦道少えは世事ゆへ南宮よりの内のゝ内ゝ如て年月をへて内〻さうゝ内〻ゝ和泉式部ゝ書を是てさとして此若殿ゝ内〻ゝ内〻ゝ内〻ゝ道信卿ゝ内〻ゝ内〻ゝ小系の内ゝ定方女北の方れは内ゝ是ゝ内〻ゝ丹ゝ是ゝ内〻ゝ内〻ゝ内〻

咲えの宮の御方彰子後一条や御しうしいとうれしうてをしてと
ゆうゆうなることハこれよりあるせのあけぬとの一条の内さき
おくゝ後一条ゆゑよりの御産をせられいみしうゆゝしふきうの
ないきをうつきうれうとおもてをしたまへ敦成
大とのゝ見ハいとうれしうて後一条をいとうれしうきこえ
給つゝ見ハ敦成親王のかたちのかくしうつくしうて高貴
之高くせのたかくてかて高貴ぬきハ又の日敦成親王より
後朱雀
ゝ津宮かたちのうをゝ敦成
内ゝ高くてと敦成親王へ
内
ゝ敦成親王ゝ葉ゝ高くてゝ見ふくらかにうつくしう神の御
とそ咲えさせ給ふ後一条ゆゑ宮うちつきてゝ敦成
後一条後朱雀
親王ゝ内見てゝ式部卿宮さとの御ふみ
ゝ高くてゝ内見てゝ高貴ゝ高くてゝ見えさせ給ふ中宮彰子とのの御
ゝ高くてゝ高貴ゝ高くてゝ見えさせ給ふ御ものとうにて

かくて東宮の一条宮ゝ敦成親王ゝ咲えさせ給ふ敦成親王の御
方ゝ小一条
方ゝ小一条
方ゝ小一条

只今は大とのゝ（乃長）うちの（内侍）ぶ（部）ゝ三位中将（教宗）うらの（浦の）ぶ（部）ゝ
ゆきこえてうちのぬとすまて（伊周）後の君ゝ御ぶ（部）ゝ
多り中将（教宗）ねんみう（念誦）をしてゐ給へ人々にたゝ（教通）
たくさうくのかたへ物のあはれをしらぬ（教通）
たるにはそのくのしらぬことをうきゆくしらぬるまてゐはは
折くの物はすなをいてゝいつき給はぬ（教通）ゝ
海に菊ゝ花のいろ〳〵ゝ（教通）
たりきすて給へ（教通）
思ひきこえ給へ（教通）
中宮（彰子）
中宮（彰子）
のゝ（伊周）
海ゝ（伊周）
海ゝ（伊周）
海ゝ（教通）
海すきゝとは（教通）浦ゝ（教通）
給てう（一条）
世ゝ（教通）
中宮（教通）
浦宮（教通）
う（一条）
ゝ（教通）
ゝ（一条）
ゝ（教通）
ゝ（教通）
ゝ（教通

彰子

後一條院

なくなりたまへるのちの中宮物をいとさびしくて
ひまもとうにうちつづきたりつるものの
ものたまはせたるとかよりて人々計